

子どもたちの明日 Children, Our Future

2007年6月 NO.82



カンボジア地区保育所 ©小林正典

目次

- ② 特集1 都市貧困層の子ども支援、いよいよ始まる
- ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に感銘され、1980年に結成されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。



給食の時間 ©小林正典

特集

都市貧困層の子ども支援、いよいよ始まる

カンボジア事務所長
関口晴美

2006年度、CYRはプノンペン市ルセイクオ都の貧困層が多く住む地域で、約200軒の家庭を訪問して、生活状況や子どもの様子などを聞き取り調査を行いました。この結果を踏まえて、今年度は2つの地域でそれぞれ新たな事業を開始します。この事業は、今までの活動を通して、カンボジアの人々とのつながりの中で検討され、実施できるようになりました。

保育所スタート -チュラントムレ地区(第2村・コー第1村)-

現地NGOケマラに協力して保育研修、給食支援を4年間実施してきた地域です。ここに新たな2ヶ所の保育所を開設します。

1村に1保育所が欲しいところですが、ケマラ保育事業担当のウーさんは、今回保育所の場所を2ヶ所、以下のような条件を優先しました。

- 子どもが多く、親が働いていて保育所の必要性が高い。
- 地域の人たちの協力が得られる。
- 保護者が教育を受けておらず、生活環境が良くない。
- ひとつの村だけでなく近隣の村からも通える位置にある。

保育所は、一般住宅の軒下を借りてそこに開所するため、広さ、大家さんの人柄、ケ

マラの地域相談役との関係など色々な点を考慮しました。4月には、村長とグループリーダーが推薦した9名の保育者希望者をケマラが面接し、保育者4名と給食係2名が選ばれました。

現在、CYRが支援してきた別の保育所で、先生たちの見習い研修が始まっています。新しい子どもたちの登録も間近です。

保育所の新スタッフはこんな人

給食係に選ばれたイエー・サナさん23歳。コンボン・サム州に住んでいましたが、1年前にご主人が病気で亡くなり、残った子どもを母親に託してマレーシアに家族として出稼ぎに行きました。そこでは暴力をふるわれ、豚肉料理を10日間作らなければならなかった。サナさんはイスラム教徒です。豚肉は食べられなかったので、重傷になりカンボジアに送られました。村長が、保育所の仕事に申し込むように促す。今回保育所で働くことになりました。

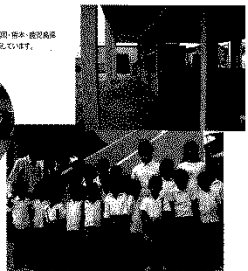


学校建設と朝ごはん支援 -フノンベントメイ地区(トロピエンスバイ村)-

2003年度に現地NGOコファが実施していた寺子屋教室で、学校に通えない子ども約60名にパンとミルクの支援を行ったのを始め、その後5歳児・1・2年生の小学校の建設、施設整備、保育研修を行いました。

この地域にはプノンペンから移住させた人が多く住んでいますが、市街地から遠く離れているために仕事を探すが容易ではありません。仕事のない日は十分に食事がとれないなど、慢性的な栄養不足の子どもが多くいます。また、これから子どもの数は増えると考えられますが、教室が十分ではありません。CYRは、6年生までが学校に通えるように教室の建設を始めました。そして、通ってくる子どもたちに朝ごはんを支給します。今、そのための台所と食堂を建設中です。

11月には工事が終了して、新学期には子どもたちが元気に通ってくる姿が見られるでしょう。



(左・下) 小学校の子どもたち
(右) 建設中の食堂

虫歯の数が多いカンボジアの農村。CYRは、保育所で予防プロジェクトを行っています。今年度は「虫歯の数が2004年に行った歯科検診の平均値を上回らないこと」を目標に、子どもの検診や保育者・保護者向けにワークショップを行いました。現地でご協力をいただいた歯科医の沼口麗子先生が、その様子をお伝えします。

もう痛い思いはしなくていい。虫歯は予防できる病気。

NPO「カムカムメール」代表 沼口麗子



プロフィール 沼口麗子氏
1988年より公益財団法人国際医療福祉会に所属。1999年から2年間、ネパール農村開発協会の職員としてネパールで歯科医療活動に従事。2004年4月から歯科医療支援団体医療支援機構(OIE)の職員として1年間カンボジアに滞在し、JICAの事業支援活動に従事。2005年11月、NPO「カムカムメール」設立。

織り、短期集中研修がはじまる

のどかな田園風景が広がるタケオ州トピエンラサン地区は、昔から織物がとても盛んな地域です。カンカンカン——農閑期になると、家々の軒下からは、織り機が奏でる軽快な音が聞こえます。織り手の女性たちは、作業中に生地を販売して生活の支えにしているのです。CYRが、ここに開いた織物研修センターでカンボジア伝統の緋（かすひ）織りや草木染めの技術指導に取り組みはじめて約3年。毎年約10人の研修生たちを半年もしくは1年間、泊り込みで受け入れています。昨年、地域の織り手から「織りの工程で一番難しい括り（くわ）を教えてください」というリクエストがあったため、短期集中研修を開催中です。



CVRの作業室 小林正典

2月、お米の収穫が終わるころ、地域の織り手女性11名が参加して研修が始まりました。研修生は、午前中に毎日熱心に通ってきています。期間は3ヶ月間、簡単な経緯3種類を実際に織る練習をします。最後には染めと括りを織り込む実習を取り入れる予定です。

この地域では、絹の絹を織る人がこれから増える見込です。織物センターが、だんだんとこうした地域の人たちのニーズに高まる場になってきています。



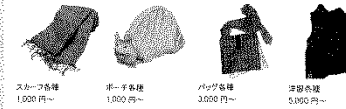
女性たちの製品が日本へ

ぜひお越しください

大手百貨店「高島屋」でCYRカンボジア絹織物を販売 - アジアの専任専長 -

会場：日本橋高島屋8階 催会場
期間：2007年7月25日（水）～30日（月）6日間
※最終日は午後6時閉会

製品目録（本巻価格）



今、さまざまな商品が注目されている「アジア」の中から、アジアに伝統的な文化と伝統技術を持つカンボジアの絹織物を紹介する「高島屋」が、カンボジアの絹織物を紹介しています。高島屋がカンボジアの絹織物を紹介しています。高島屋がカンボジアの絹織物を紹介しています。

日本橋高島屋

国内活動 - ありがとうございます -

CYRカンボジアのプロジェクトは、さまざまな日本の活動に支えられています。

イベント

4月8日、今年も花まつりコンサートが香取市明治寺で開催されました。お年と音楽の境事な調和が魅力のこの催しは、今年で13目を迎えます。明治寺とテニスパロの演奏家である武久源造さんのご尽力により毎年開催され、収益の一部がCYRに寄付されます。武久さんにインタビューを行いました。



コンサートをはじめたきっかけについて教えてください。

元ご住職でいらした草野英徳さんと出会い、「お寺でコンサートをしたおもしろい」と一緒に盛り上がり始めたのがきっかけです。た

だ経年異変で始めた。修行の場所というところでも新鮮で張り詰めた空気。それは音楽にも共通するのではないかなと思います。

世界で起きていることやCYRの活動について、どのように感じていますか？

世界のことといえば、20世紀には人口が増えすぎました。これからは資源がなくなっていくからこのままでは困る状況です。だから、競争にならないように上手に人口を減らす資源を節約していく時代に入っていく。そのためのやさしい知識が僕らには必要になるんだと思います。「今あるもので十分楽し生きられるよ」という知識。音楽もその一助になると思います。音楽界は今でも大規模ホールで行うというのが重要の夢ですが、だんだんと人の輪に交えられた小さなところでやるような方向に変わってきています。花まつりコンサートもひとつの表れではないでしょうか。

子どもという点になると、自分の子で育てているのでそれを考えざるをえません。育てなくなったのですが、15,000人に一人が必ずかかるといふ病気ですが、日本では毎年80人。ほとんどがみんな死んでしまいます。自分の子がそうなると思うのは、例えばアジアの子どもの場合はそう

いう過酷な条件で生まれてくるわけですよね。生き延びる可能性は我々より少ないですが、それは何となく、それだけで我々より祝福されている人たちだと思えます。僕の子もそうですが、3歳で死ぬまで分かっていてそれを引き受けて生まれてきたという気がしています。だから、アジアの子どものことをわかっていこうと思うのは当然だと思うんですよ。我々もも尊重する人たち。その人たちのために何かをするというは、「何かさせてあげたい」ということだと思えます。でも僕は自分の子がそうならなかったらこんな風には思わなかったの。まったく前向きに感謝しています。

毎年継続して下さっているの、どうしてですか？

実は理由はあんまりなくて、「今年で終わろう」と毎年思っています。なのでその季節が巡ってくるやけたくって、草野さんがご存命の時は、その時期が近づくと「またやりますか」とって自然と毎年2人で言っていました。別に続けることをどちらも考えていなかったわけ、コンサートは、あんまり「来年もやれよ」となんて思っているというアイデアが回っちゃって、とに新しく案が浮かばなかったら来年やってもしょうがないなと思ったのですが、いつも何となくやってきました。ごく自然に続けてきて、それが色々な人の輪に結びついていっているんです。花まつりコンサートの雰囲気は会場のみならずが作り出します。そして草野さんの人徳のおかげで良いものが出来ていると思っています。

草野英徳氏
2004年7月11日に逝去。明治寺のご住職でいらした際に、花まつりコンサートにスタッフとして参加し、CYRにあたりかたて支援をいただきました。



コンサート開催の様子

学校

取手松陽高校、全校生徒で「布チヨッキン」

5月9日、茨城県取手松陽高等学校では、全校生徒約700名が「みんな布チヨッキン」に取り組みました。今後、文化祭で行うチャリティで募金を集め、希望する生徒によるカンボジア訪問を計画しています。地球市民教育を担当する大塚先生に当日の感想を聞いてみました。



茨城県立取手松陽高等学校 特別活動（生徒会）部長 大塚 修 先生

次のつなごうをどうつづけるのか、「みんなで布チヨッキン」(※)は大成功の入り口です。その入り口を過ぎてカンボジアを見る。また「布チヨッキン」の募金を集めるために現地へ行きたいという生徒がでてくる。私は現地を見た生徒がどう変わるかがすごく楽しみです。そして全校生徒の前の備前祭金を計画しています。カンボジアに離れた生徒から、全校生徒はきっと大きな刺激を受けるでしょう。そして教員の意識も変わっていくでしょう。これは大きな起爆剤になると思います。

6月の文化祭では、各クラスごとにチャリティを模索してもらっています。ボランティア委員会では、CYRの活動を紹介し、来場者に「布チヨッキン」体験と募金を呼びかけるイベントを行います。そして今回作ったボールを送るための募金を伺うとみなさんで集めてい。生徒たちにとっても大きな目標になると思います。彼らは想像がたくなく、もっと大きなものを生かしてほしい。そして地球市民になってほしい。世界とつながって、変えたいものだらけの意識が日常から自然と出てくる。CYRの活動を聞いた生徒は色々な話題を持ったと思います。自分には何ができるかなって。

※「みんなで布チヨッキン」は、カンボジアの子どもたちのために、募金を集める活動です。詳しくはhttp://www.cyr.or.jp/cambodia/index.htmlをご覧ください。

企業

住友信託銀行、各店舗で写真パネル展



住友信託銀行 千葉支店 朝臣 泰 氏

4月9日～27日の3週間、住友信託銀行千葉支店の1階ロビーにて、「カンボジア保育所の子どもたちの写真パネル展」を実施しました。住友信託銀行では、これまでも社会貢献活動の一環として、「幼い難民を考える会」のご協力のもと、同様のパネル展を渋谷支店や東京営業所で実施しており、千葉支店での実施は3店舗となります。お客様の中には、興味深く写真をご覧になっている方や、10日前食料品のチラシを持ち帰られた方もいらっしゃいます。パネル展の主旨はお客様にもご理解いただけたらと感じています。



また、幼い難民を考える会への寄付は「寄付金控除」の対象となることも今回初めて知りましたので、当社の遺言信託業務で寄付金を考えているお客様への紹介も、今後の業務の中で取り入れていきたいと思っています。

※「幼い難民を考える会」は、カンボジアの子どもたちのために、募金を集める活動です。詳しくはhttp://www.cyr.or.jp/cambodia/index.htmlをご覧ください。

インターンシップ報告

CYR 東京事務所は、毎年1年間のインターンシップ受け入れを行っていき、2006年3月、在籍を結んだインターン生2名が1年間の振り返りを報告します。



東京外国語大学
岩野 佳江

事業内容と雰囲気は悪かれてインターンを始め、新しい経験の連続でした。広報のお手伝いをして、ずいぶん文書力が鍛えられた気がします。イラストを加え、できあがった原稿を見たときには大きな喜びを感じました。

また、中学生にカンボジア文化を紹介する機会もいただきました。「聞く人にきちんと伝わり、心に残る話し方」を学び、人前で話すことに苦手意識を持っていた私も少し自信を持つことができました。この時の経験が現在就職活動の面接で大いに役立っています。

余談ですが、CYRに行く日はいつも3時のお茶の時間を楽しみにしていました。世界各地の美味しいお菓子をつまみながら、みなさんと楽しいお話ができたからです。年齢も性別もさまざまな皆さんのお話を聞くことで、今まで知らなかった価値観や社会の常識を学ぶことができました。私はひそかに、CYR 事務所並様のあたたかい雰囲気は、このお茶の時間につられていないのではないかと考えています。



東京外国語大学
島山 薫

インターンを志望した理由は、「カンボジアの子どもたちの役に立つ仕事がしたい」という夢のために、自分を成長させたいと思ったからです。今、この目標を達成できたと感じる私にここにいます。

初めて事務所を訪れた時に、人のあたたかきを感じたのを覚えています。みなさん笑顔を受けやすさ純粋に仕事を楽しんでいる姿を見て、こんな風になりたいという目標を持ちました。ボランティアの方たちは、一人一人が違った背景や価値観を持っていました。そして、人の意見を聞き、受け入れながらも自分をしっかりと持って表現することの大切さを勉強できたことは、以後社会人として生活していく上でもとても役立つことだと感じています。

また、笑顔の持つパワーを改めて感じました。どんなに雨が降っていても、風が吹いていても、事務所に笑顔がない日など一度もなく、それを足で安心したり元気をもらったりということがいかに大きなことを知りました。このように自分を振り返るようになれただけでも大きな成長だと思えます。

※2007年度は、4名のインターン生が活躍中です。

CYRの活動をご支援ください

年会費 正会員 ¥10,000 学生会員 ¥3,000 団体会員 ¥30,000

下記の口座にご送金ください。

郵便振替 No.00110-9-38227 (特活) 幼い難民を考える会 銀行振替 三菱東京UFJ銀行六本木支店 (普) No.1351747
特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

※CYRは認定 NPO 法人です。5,000 円を超えるご寄付は寄付金控除の対象となります。



特定非営利活動法人

幼い難民を考える会
CYR
CARING FOR YOUNG REFUGEES

〒106-0046 東京都港区元麻布3-2-20 丸越麻布ビル2F
TEL: 03-3796-6377 FAX: 03-3796-6389
Email: info@cyr.or.jp
URL: http://www.cyr.or.jp

子どもたちの明日 82 号

◆発行日 2007 年 6 月 5 日
◆発行人: 渡水正徳